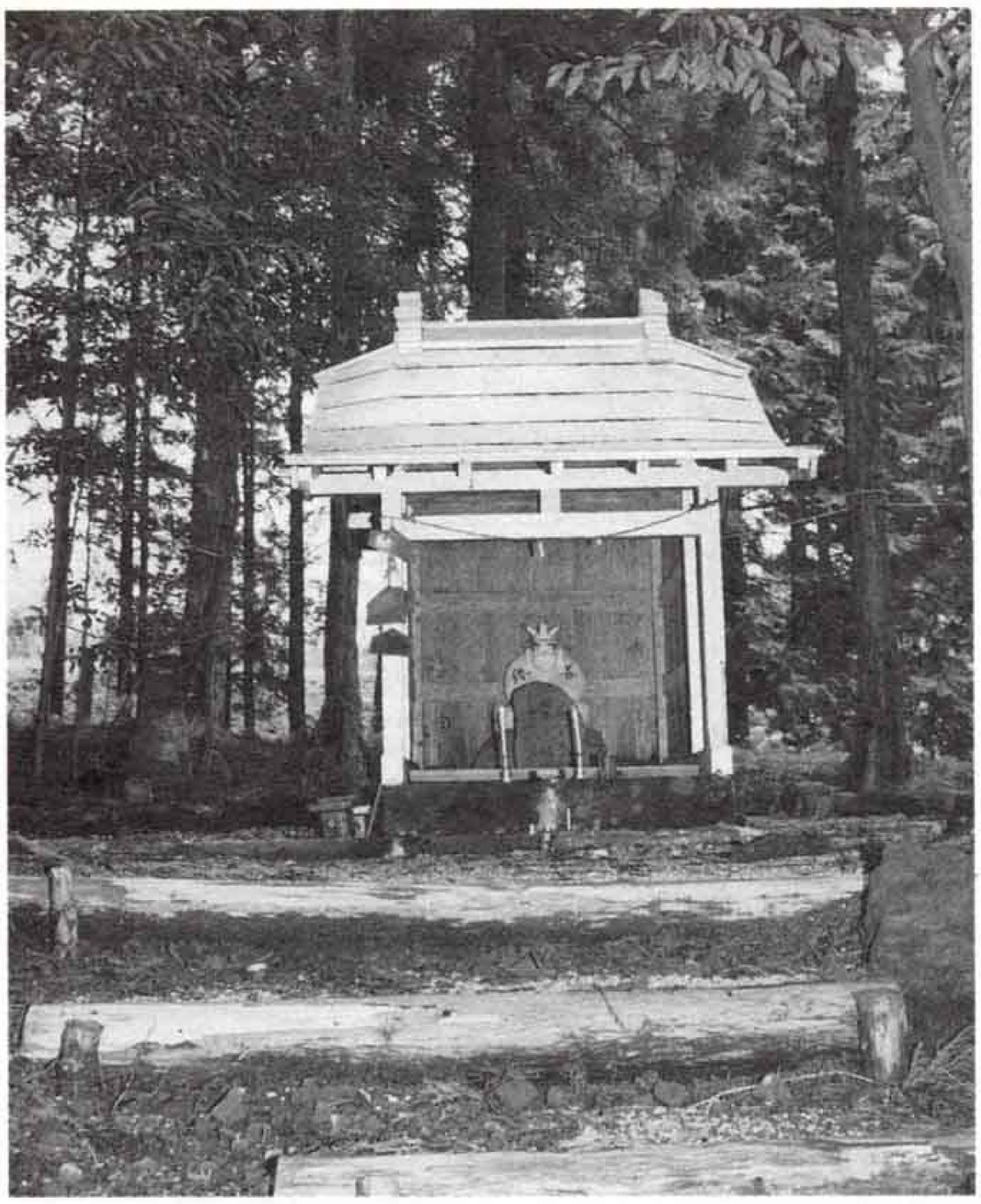
富士の民話 あれこれ

大淵小僧

大淵の丸火自然公園の東側に、小さなほこらがひっそりと建っています。そこには、「大淵小僧」と呼ばれる子供が祭られています。今回は、この「大淵小僧」の悲しいお話を紹介します。



「大淵小僧」を祭るほこら

昔、大淵新田におばあさんと男の子が暮らしていました。男の子は小さいときに両親と死に別れ、おばあさんに育てられました。物心がつくとお母さんやお父さんが恋しく、ほかの家の子供たちをとてもうらやましく思っていました。そのうえ、近所の子供からは「親なしっ子」といじめられ、だんだん心がすさんでいきました。そして畑を荒し回ったり、子供に石を投げたりして、悪いことをするようになり、「大淵小僧」と呼ばれるようになりました。小僧は人々に嫌われれば嫌われるほど、物を盗んだり、人をだましたりと、さらに悪いことをするようになりました。

困った村人はおばあさんに注意するように言いましたが、おばあさんも村人の言うことを聞こうとしません。村人は小僧を捕まえて遠くへ置き去りにしましたが、すぐに戻ってきてますます悪いことをするようになりました。とうとう村人の中に小僧を殺してしまえと言う者が出て、村中が殺気立ち、名主の反対を押し切って小僧を殺してしまいました。

それから、小僧を殴った人が次々と急病で死に、村じゅうに原因不明の病気がはやりました。だれからともなく「これは小僧のたたりだ」と言うようになりました。村人は「ひどいことをした」と悔やみ、子供の霊を神として祭りました。すると、村人の病気はたちまち治ったということです。

「大淵小僧」の話は本当にあったこととして子供のころから聞いています。また、一緒に暮らしていたのは、母親だったとも言われています。

「大淵小僧」は地の神様として、大淵三丁目に祭られていました。昭和四十五年に地元の人で祭ろうと当時祭っていた人から払い受け、それ以後は大淵三丁目四組で祭っています。毎年九月二十八日は縁日で、三年ほど前から「大淵小僧」の家があったという大淵二丁目の人たちも参加してくれています。このようないわれのある「大淵小僧」のほこらですから、人々が仲よく穏やかに暮らせるように、これからも大切に祭って行こうと思っています。

「大淵小僧」を祭る 石川昭一さん（大淵三）

こちら編集室

桜の季節もあっという間に終わって、新緑まぶしい季節となりました。この時期は、毎年何か新しいことを始めたくなります。それに加えて、広報ふじの取材でお会いする市民の皆さんは、魅力的な人ばかり。好奇心を持って前向きに生きている人の、若々しい感性には本当にびっくりさせられます。しかし、「こうしちゃいられない」と気は焦っても、いざとなるとなかなかうまくは…。とりあえず、一昨年から始めた水泳を続けながら何にしようかと、いろいろな資料を見ながら熟考中です。（今のところ広報広聴課最年少職員S）

人　口　236,082人　（前月比－248）
男　117,632人　（－88）
女　118,450人　（－160）
世　帯　76,750世帯　（＋192）　4月1日現在
編集・発行　富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100　☎51-0123

広報ふじは古紙100％の再生紙を使用しています